

題目	学校関係者評価報告書
内容	<p>1. 学校関係者評価委員会</p> <p>1) 開催日時：平成26年2月13日（木）16時10分～17時10分</p> <p>2) 会場：日本福祉教育専門学校 高田校舎会議室</p> <p>3) 出席者：</p> <p>委員 山田 幸一（日本福祉教育専門学校 教務部長）</p> <p>委員 金川 宗正（社会福祉法人 フロンティア 法人本部事務局 主任）</p> <p>委員 二渡 努（公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 社会福祉専門員）</p> <p>委員 松山 慎司（社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会 専門員）</p> <p>委員 渡邊 大樹（社会医療法人 社団正志会 南町田病院 専門職員）</p> <p>事務局 小杉 泰輔（事務部長）</p> <p>事務局 川口 朝子（教務課）</p> <p>事務局 積田 修真（教務課）</p> <p>書面参加：</p> <p>委員長 肥後 義道（社会福祉法人 敬心福社会 池袋敬心苑 施設長）</p> <p>2. 議事</p> <p>1) 委員会の運営について</p> <p>学校評価ガイドラインに基づき、委員長を山田氏から肥後氏へ変更とする旨を説明し、全委員が承諾した。（小杉）</p> <p>2) 議事録確認</p> <p>平成25年度第1回学校関係者評価報告書に沿って、説明が行われた。（山田）</p> <p>① 自己点検・自己評価項目【4-19】就職率の向上が図られているか。</p> <p>図られている。平成24年度は就職希望者の就職率が100%であった。今後の課題として、入学後に進路変更する学生に対して、本人が希望する職種に就職できるよう個別に対応していきたい。</p> <p>② 自己点検・自己評価項目【4-21】退学者の低減が図られているか。</p> <p>平成23年度まで退学防止の取り組みは学校全体よりも学科単位で行っていた。そこで、平成24年度からは学校全体で取り組んでいる。具体的な防止策として「退学理由の情報共有」と「学生の出欠席状況の把握」を行った。継続して退学率低減策を検討していくが、平成25年度は退学率5%を目標として掲げている。</p> <p>言語聴覚療法学科の退学防止策として、仕事内容を具体的にイメージしてモチベーションを高めることや、今の勉強内容が将来の仕事につながっていることを認識してもらうことが目的として、仕事に対して興味を持てるように、OB・OGが話をする機会を設けることが考えられる。</p> <p>③ 自己点検・自己評価項目【6-33】防災に対する体制は整備されているか。</p> <p>平成24年度より年2回防災・避難訓練を行っている。今後は特定学科だけではなく、全体の訓練を検討する。本校の避難場所は本校舎、高田校舎で異なるが、本校舎の一時避難場所は戸山第二小学校、広域避難場所は戸山公園一帯であり、高田校舎の一時避難場所</p>

は高南小学校、広域避難場所は学習院大学である。

3) 平成26年度 重点目標と自己評価・自己点検について

平成26年度の重点目標としては、学校運営の改善として防災体制の強化に取り組む点を掲げる。第1回議事録③にある委員の意見を教職員連絡会議で周知し、各会議で検討したところ、平成25年度に関しては、避難訓練の一環として12月17日に3分間のシェイクアウト訓練（姿勢を低くする→頭を守る→揺れが治まるまでじっとする）を実施した。また、各校舎、全学生へいきわたる分の食料品、防災用品を3年計画で備蓄しており、来年度完了する予定である。今後も引き続き定期的に交換を行う。（小杉）

4) 学校関係者評価委員会の結果を踏まえた改善・工夫について

① 委員会で得た意見活用の体制作り

よりよい学校にしていくため企業等と連携し、改善につなげていきたい。学校関係者評価委員会において、各委員よりいただいた貴重な意見を活用していく体制作りを以下のように行っていく予定である。（小杉）

- ・月1回の教職員連絡会議にて、学校関係者評価委員会の議事録を報告し、課題を組織決定する。
- ・組織決定された課題を学科会議で検討する。
- ・月2回の学科長対象の教育構想会議にて、再度検討する。
- ・週1回の執行部会議で内容の共有を行う。
- ・月1回の教職員連絡会議にて採決する。

② 授業アンケートの改善

現状、アンケートを集計し教員へフィードバックするところで完了しているが、今後は教員がどのように改善していくかを具体的にしていきたい。また、学校独自の授業アンケートから、敬心学園統一のアンケートへ移行する予定である。（小杉）

5) 意見交換

Q) 授業アンケート実施のタイミングは従来どおりか。（二渡）

A) 従来どおりである。（積田）

Q) 卒業年次生の後期実施分は、結果が学生に反映されない。最後の授業時に実施すると、教員も結果を活かせない。タイミングを考えた方がいいかもしれない。（二渡）

A) 昨年よりフィードバックを早める努力はしている。前期実施のアンケートは後期開始の1週間前、後期実施のアンケートは新年度開始から3週間以内に、教員へ返すように改善している。（積田）

Q) 全ての授業が終わってからでなく、半分くらいの時期に実施という手もあるかもしれない。（二渡）

A) 学園本部で授業アンケートの改善案を検討しているところだが、次回の会議で実施時期についても提案してみたいと思う。（山田）

Q) 夜間部ではリアクションペーパーは義務か。（二渡）

A) 義務ではない。実施した方がよいとは思いますが、出席をとるだけでも大変なのが現状である。（山田）

Q) 以前はリアクションペーパーが出席代わりであった。代筆は筆跡でばれる。併用して

もいいかと思う。(二渡)

A) 授業アンケートの結果は年2回の教授法研究会にて、発表している。(山田)

Q) 授業アンケート結果はどのように学生に開示しているのか。(二渡)

A) 各校舎にファイルを置いている。(積田)

アンケートの項目設定そのものが難しい。(山田)

Q) 集計処理はエクセルか。マークシートにしてはどうか。(二渡)

A) エクセルでやっている。金銭的にマークシートは難しい。(積田)

今後は本部が一括して処理することになる。5校共通項目プラス学校別の項目を設定できる。教員は評価されて、改善につなげていかなければならない。(山田)

Q) シェイクアウト訓練は初めて行ったが、知っていたか。(山田)

A) 知らなかった。(全委員)

Q) 実施後、学生にアンケートをとったが、どのような結果だったか。(山田)

A) 8割の学生がシェイクアウト訓練を知らなかった。(積田)

Q) 実習生に対する防災のマニュアルや注意事項というものはあるのか。(積田)

A) マニュアルはないように思う。特養は備蓄関係は多いので、実習生の分も問題ない。防災計画はある。(金川)

Q) 防災計画内に実習生に関する項目はあるのか。(山田)

A) 把握していない。(金川)

Q) インフルエンザや台風などの緊急時に、一斉に実習先と連絡をとる手段があるといい。(二渡)

A) 去年の台風の際は、教員から各実習施設へ確認の連絡を入れた。(積田)

現状、学生を施設の指示に従わせているのみ。(山田)

Q) これまで消火訓練は行ってこなかった。各施設では実施しているか。(山田)

A) 年2回消防訓練が義務付けられている。(金川)

公園を借りるにも区の許可が必要である。(山田)

Q) 消火用のホースは学校にあるか?(金川)

A) ない。消火器のみある。スプリンクラーもない。(山田)

Q) 第1回委員会時に自己点検・自己評価報告書を配布しており、実習先が就職先につながる、卒業生と在校生の交流の機会をつくってはどうか、等意見をいただき、学内で検討したいと思っている。他になにか意見等あるか。(小杉)

Q) 基準1の5つの国家資格とは何の資格か?(二渡)

A) 介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、言語聴覚士、手話通訳士である。(山田)

A) 在学中の短い時間でいかに実践に結びつくかを意識して取り組んで欲しい。また、退学率5%の数字にこだわりすぎず、意志の固い学生の意欲をそがないように気を付けて欲しい。(松山)

A) 様々な理由があるので、退学率5%の数字にこだわりすぎないでほしい。就職率については、うまく調整して働く力へつなげてほしい。(金川)

A) 授業アンケート結果の閲覧については、知らない学生もいると思う。周知して欲しい。(渡邊)

A) 学生からの反応はない。実際学生が見ているかどうかまでの確認はできていない。(積田)

Q) 基準3の研修・助成制度とは。(二渡)

A) 教育研鑽システムを立ち上げ、10万円まで助成金を出すことができる。教育論文等。(山田)

Q) 基準1と基準3の5資格の整合性はどうか?(金川)

A) 介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、言語聴覚士、社会福祉主事に訂正する。(山田)

### 3. 平成26年度の自己点検・自己評価について

文部科学省ガイドライン準拠版に基づき作成予定である。6月中に自己評価報告書を作成、7月の教職員連絡会議にて配布・周知、7月中の学校関係者評価委員会にて報告書を配布する予定である。今年度同様、2回委員会を開催するのでご意見をいただきたい。(小杉)

### 4. 次回の委員会開催日程

平成26年7月の第3週から第4週。委員の都合を聞き、後日決定する。

### 5. 総括

今年度第二回目の自己点検・自己評価ならびに学校関係者評価においては、前回の各委員からのご意見を学校業務に反映させることができたことを報告し、全委員からの了解が得られた。さらに、今回の議題に対しても、各委員からの積極的・前向きなご意見を賜り、学生にとってよりよき学びの場として、さらなる充実を図るための貴重な素地となった。今後も、各委員から様々なご意見や各種の評価をいただき、学校運営の改善を図っていきたい。

以上